

## メタデータエディタのレコードアクション

前回のセッションではメタデータエディターでレコードを編集する方法をご紹介しました

このセッションでは、レコードに対して実行できる他のアクションについてご紹介します

現在開いているレコードがあるので、[レコードアクション]メニューを確認します

レコードレベルのアクションを実行できます

元のレコードを再読み込みすると、保存されている最新バージョンのレコードが開き 前回の保存以降に行った変更をすべて元に戻すことができます

[レコードの複製]では、レコードの新しいコピーを作成します

上部のリボンとナビゲーションバーに[新規]インジケータが表示されています

[新規レコードを派生]は 選択したテンプレートに応じて関連する新しいレコードを作成します

例えば、タイトルの別の版を作成します

[検証]は、検証プロセスを実行して、潜在的なエラーと警告を表示します

レコードを保存する時と同様です

[一致を検索]は、構成されたマッチングプロファイルに一致するレコードを検索します

例えば、ISBN との一致です

[メモの追加]は、他の図書館スタッフのレコードに管理メモを追加します

レコード内にメモフィールドを追加するのは異なります

メモを追加した後 メモアイコンが表示され、これはレコードにメモがあることを意味します

メモは、[関連データを表示]>[メモを表示]で表示できます

レコードを別の目録者に割り当てると、レコードはユーザーから解除され 選択したメンバーに割り当て、メタデータエディターへ読み込まれます

割り当てについて警告するメモと電子メールを追加できます

割り当てられたレコードについて、割り当てを解除することもできます

ディスカバリーで非表示にするとは、図書館のユーザーがこのレコードを Primo で検索した際に表示されないことを意味します

非公開アイコンは、このレコードが非公開になっていることを示します

また、[レコードアクション]メニューからも非公開を解除できます

その他に利用可能なオプションは、このタイトルにインベントリーを追加することです

電子ポートフォリオやコンテンツのデジタルファイルをアップロードできる表現物です

レコードに関する作業が終了し、保存したら ナビゲーションバーからすべてのレコードをリリースすることをお勧めします

以上になります ありがとうございました